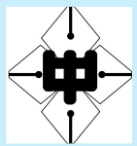


<坂井市教育基本目標>

「豊かな心と生きる力を育み、未来を拓く都市作り」

<学校教育目標>

創造的で活力ある社会の形成をめざし、確かな学力と健康で心身ともにたくましく、豊かな感性と自立心に富み、郷土に誇りをもつづくり



校訓

誠
実

創
造

協
和

錬
磨

<めざす学校像>

- (1) 明るい学校
- (2) 落ち着いた学校
- (3) きれいな学校
- (4) 地域から信頼される学校

<めざす生徒像>

- ・「やってみたい」を起点に情報ツールをパートナーとして活用し、納得いくまで試行錯誤する生徒。
- ・「委ねられた場」において、自ら学びの計画を立て、粘り強く目標をカタチにする生徒。
- ・豊かな感性で地域の課題や魅力を見出し、多様な手段を用いて郷土の未来を創造する生徒。

研究主題

「やってみたい」を形にする

～「委ねる」場づくりと、生成AIの利活用による学びの深化～

重点目標

【居場所・絆づくり】

- ◎自己有用感を獲得できる主体的・協働的な活動の工夫

取組の具体

- いじめ・不登校の未然防止
→生徒一人一人が「認められている」「大切にされている」「役に立っている」と実感できる学校、学級づくりの推進
※ポジティブ教育による生徒の育成
- 主体的・対話的で深い学びを核とした協働学習
→課題解決型学習を計画的に行い、発表や意見交流の場で、「自分の考えが仲間の役に立った」という実感が得られる授業づくり
※自己有用感の育成
- 異学年交流、縦割り活動の推進
→行事での異学年交流や上級生が下級生を支える場、下級生からの感謝の言葉を伝える場の設定（頼られる経験と認められる経験）
※自己有用感の向上

【考える授業づくり】

- ◎自ら思考し、共に高め合う学習（自己調整学習）者の育成

取組の具体

- 振り返りを用いた自己調整学習
→毎授業の振り返りと、学びの言語化
→自らの成果と課題の自覚、そして次なるステップへの橋渡し
- 情報活用能力の育成
→情報の妥当性の検証、および多角的な視点による多面的な分析の実践
→GIGAスクールさかいを活用して、情報モラル・倫理の醸成
- 対話的な学びの充実
→話し合い活動を通した多様な価値観への触れ合いと、学びの深化の促進
- 教員の学び合いの場の充実
→授業づくりの進捗状況等を話し合うカンファレンスを不定期に実施

【地域と歩む学校づくり】

- ◎地域と連携し、開かれた学校づくりの推進

取組の具体

- 地域人材の活用
→授業や学校行事においてゲストティーチャーとして招聘
→地域人材との協働による学びの充実
→異校種との継続的かつ積極的な交流活動
- 積極的な情報発信、学校公開
→学年だより・ホームページ等による適切な情報公開
→ホーム&スクールによる、迅速かつ正確な情報共有と保護者との連携強化
- 学校評価の活用
→生徒・教職員・保護者・地域住民による学校評価を活用した教育活動の改善

数値目標

- ◎自分が「認められている」「大切にされている」「役に立っている」と実感できる生徒 80%
- ◎自分の考えや発表が「仲間の役に立った」と実感できる生徒 70%
- ◎異学年交流や縦割り活動を通して、成長することができた生徒 80%

- ◎振り返りを通して、自分の学びに活かすことができたと感じる生徒 80%
- ◎生成AIを活用し、多角的に考え、学びが深まったと感じる生徒 70%
- ◎話し合い活動を通して、他者の意見を聞くことで、自分の考えの根拠をより明確にできるようになった生徒 80%

- ◎地域人材や異校種との協働学習が学びの充実につながったと感じる生徒 80%
- ◎学校は教育活動や取組内容を適切に伝えていていると感じる保護者 80%
- ◎学校評価の結果を踏まえ、教育活動の改善が図られていると感じる教職員・保護者 80%

<「生徒と向き合う時間」や「教員自身の心身の健康」を確保し、教育の質を高めるための業務改善>

- ・繁忙期を見越した年間を通じた一斉退庁デーの弾力的運用
- ・C4thや連絡板等を活用した会議の時短や事務処理のDX化
- ・部活動の活動時間の遵守と地域展開の推進
- ・データ活用による教育の質向上
- ・協働を支える心理的安全性の醸成